

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	A2				
科目名	初級総合日本語				言語活動	聞く・読む・話す（やり取り）・書く				
授業形態	講義	演習	実技	実習	1回2時間 45分/時間	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	12					授業単位時間	240			
学習目標 Can do	短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。 短い簡単なテキストなら読んで理解できる。 単純な日常生活やアルバイトの中で、情報の直接のやり取りが必要ならば身近な話題や活動について話し合いができる。 短い個人的な内容の文章なら書くことができる。									
授業概要	『みんなの日本語 初級Ⅱ』のテキストを使用し、初級の文法をどのような場面で使うのか学習し、実際に使うことができるように楽しく学び、日本語の話す・聞く・読む・書くの4技能の基礎が自然に身につくことを目指す。 各課1回目（90分）は、①新出の語彙を学習、②2つの新出文法について学習、③それを使って練習や簡単なロールプレイをする。2回目（90分）は、①2～3つの新出文法について学習、②それを使って練習や簡単なロールプレイ。3回目（90分）は練習問題で語彙や文法の定着させていく。4回目（90分）は会話練習。各課毎にこれを繰り返しながら授業を進め、5課毎に復習をして文法事項の確認や語彙の更なる定着を図っていく。									
学習 形態・形式	基本的には講義型で一方の知識伝達。ロールプレイ・会話の練習はペアで演習。									
評価	方法	授業内容の筆記・口頭試験の結果と授業に臨む態度で100点満点で評価								
	割合	筆記・口頭 試験2回（中間・期末）(80%)、授業に臨む態度(20%)								
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊	スリーエーネットワーク編著	スリーエーネットワーク
副教材	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 書いて覚える文型練習帳	平井悦子・三輪さち子	スリーエーネットワーク

回数	授業計画（全120回 240コマ）
1	初回ガイダンス（科目の目的・目標・評価、授業の進め方） 復習（みんなの日本語1課～25課）
2	みんなの日本語初級Ⅱ 26課① 新出語彙 ～んです どうでして～んですか・・・なんです。
3	みんなの日本語初級Ⅱ 26課② 〈普通形〉なんです、〈Vて形〉いただけませんか。 〈普通形〉なんです、疑問詞〈Vた形〉らいいですか。
4	みんなの日本語初級Ⅱ 26課③ 練習問題
5	みんなの日本語初級Ⅱ 26課④ 会話練習
6	みんなの日本語初級Ⅱ 27課① 新出単語 可能動詞 Nが可能V
7	みんなの日本語初級Ⅱ 27課② Nが見えます／聞こえます Nができます NしかVません
8	みんなの日本語初級Ⅱ 27課③ 練習問題
9	みんなの日本語初級Ⅱ 27課④ 会話練習
10	みんなの日本語初級Ⅱ 28課① 新出単語 〈V1ます形〉ながらV2 〈Vて形〉います

11	みんなの日本語初級Ⅱ	28課②	～し、～し 1. 並列描写、2. 理由の列挙 どうして～んですか。・・・～し、(～し、)～から。
12	みんなの日本語初級Ⅱ	28課③	練習問題
13	みんなの日本語初級Ⅱ	28課④	会話練習
14	みんなの日本語初級Ⅱ	29課①	新出単語 Nが〈V(自動詞)て形〉います Nは〈V(自動詞)て形〉います
15	みんなの日本語初級Ⅱ	29課②	〈Vて形〉しまいます/ました(完了) 〈Vて形〉しまいました(遺憾)
16	みんなの日本語初級Ⅱ	29課③	練習問題

回数	授 業 計 画 (全120回 240コマ)
17	みんなの日本語初級Ⅱ 29課④ 会話練習
18	みんなの日本語初級Ⅱ 30課① 新出単語 ～に～が〈Vて形〉あります ～は～に〈Vて形〉あります
19	みんなの日本語初級Ⅱ 30課② 〈Vて形〉おきます①(必要な準備)②(次の使用にむけた措置) ③(現状の維持、放置)
20	みんなの日本語初級Ⅱ 30課③ 練習問題
21	みんなの日本語初級Ⅱ 30課④ 会話練習
22	みんなの日本語初級Ⅱ 26課～30課 復習
23	みんなの日本語初級Ⅱ 復習H
24	みんなの日本語初級Ⅱ 31課① 新出単語 動詞意向形 〈V意向形〉と思っています
25	みんなの日本語初級Ⅱ 31課② まだ〈Vて形〉いません 〈V辞書形〉／〈Vない形ない〉つもりです 〈V辞書形〉／〈Nの〉予定です
26	みんなの日本語初級Ⅱ 31課③ 練習問題
27	みんなの日本語初級Ⅱ 31課④ 会話練習
28	みんなの日本語初級Ⅱ 32課① 新出単語 ～ほうがいいです
29	みんなの日本語初級Ⅱ 32課② ～でしょう ～かもしれません
30	みんなの日本語初級Ⅱ 32課③ 練習問題
31	みんなの日本語初級Ⅱ 32課④ 会話練習
32	みんなの日本語初級Ⅱ 33課① 新出単語 V命令形 V禁止形 「～」と書いてあります／読みます
33	みんなの日本語初級Ⅱ 33課② ～は～という意味です ～と言っていました ～と伝えていただけませんか
34	みんなの日本語初級Ⅱ 33課③ 練習問題
35	みんなの日本語初級Ⅱ 33課④ 会話練習
36	みんなの日本語初級Ⅱ 34課① 新出単語 Vた形／Nのとおり～ Vた形／Nのあとで～
37	みんなの日本語初級Ⅱ 34課② ～て／～ないで～ ～ないで、～
38	みんなの日本語初級Ⅱ 34課③ 練習問題
39	みんなの日本語初級Ⅱ 34課④ 会話練習
40	みんなの日本語初級Ⅱ 35課① 新出単語 条件形 〈V条件形〉／〈Vない形〉なければ、～

回数	授 業 計 画 (全120回 240コマ)
41	みんなの日本語初級Ⅱ 35課② 疑問詞〈V条件形〉いいですか ～なら(名詞)、～
42	みんなの日本語初級Ⅱ 35課③ 練習問題
43	みんなの日本語初級Ⅱ 35課④ 会話練習
44	みんなの日本語初級Ⅱ 31課～35課 復習
45	みんなの日本語初級Ⅱ 復習I
46	みんなの日本語初級Ⅱ 副詞・接続詞・会話表現のまとめ
47	みんなの日本語初級Ⅱ 36課① 新出単語 ～ように、～ ～ようになります
48	みんなの日本語初級Ⅱ 36課② ～ようにしています ～ようにしてください
49	みんなの日本語初級Ⅱ 36課③ 練習問題
50	みんなの日本語初級Ⅱ 36課④ 会話練習
51	みんなの日本語初級Ⅱ 37課① 新出単語 V受身 〈人〉は～に〔～を〕～(ら)れます
52	みんなの日本語初級Ⅱ 37課② 〈人〉は～に〈所有物〉を～(ら)れます 〈物〉が／は～(ら)れます
53	みんなの日本語初級Ⅱ 37課③ 練習問題
54	みんなの日本語初級Ⅱ 37課④ 会話練習
55	復習
56	中間試験
57	中間試験 振り返り
58	みんなの日本語初級Ⅱ 38課① 新出単語 ～のは〈形容詞〉です ～のが〈形容詞〉です
59	みんなの日本語初級Ⅱ 38課② ～のを忘れました ～のを知っています ～のは〈名詞〉です
60	みんなの日本語初級Ⅱ 38課③ 練習問題
61	みんなの日本語初級Ⅱ 38課④ 会話練習
62	みんなの日本語初級Ⅱ 39課① 新出単語 ～て(動詞)、～ ～くて(い形容詞)、～ ～で(な形容詞)、～
63	みんなの日本語初級Ⅱ 39課② ～で(名詞)、～ ～ので、～
64	みんなの日本語初級Ⅱ 39課③ 練習問題

回数	授 業 計 画 (全120回 240コマ)
65	みんなの日本語初級Ⅱ 39課④ 会話練習
66	みんなの日本語初級Ⅱ 40課① 新出単語 疑問詞～か、～
67	みんなの日本語初級Ⅱ 40課② ～かどうか、～ ～てみます
68	みんなの日本語初級Ⅱ 40課③ 練習問題
69	みんなの日本語初級Ⅱ 40課④ 会話練習
70	みんなの日本語初級Ⅱ 36課～40課 復習
71	みんなの日本語初級Ⅱ 復習J
72	みんなの日本語初級Ⅱ 41課① 新出単語 ～をいただきます ～をくださいます ～をやります
73	みんなの日本語初級Ⅱ 41課② ～ていただきます ～てくださいます ～てやります ～てくださいませんか
74	みんなの日本語初級Ⅱ 41課③ 練習問題
75	みんなの日本語初級Ⅱ 41課④ 会話練習
76	みんなの日本語初級Ⅱ 42課① 新出単語 ～ために
77	みんなの日本語初級Ⅱ 42課② ～は～(の)に、～ ～(の)に～かかります
78	みんなの日本語初級Ⅱ 42課③ 練習問題
79	みんなの日本語初級Ⅱ 42課④ 会話練習
80	みんなの日本語初級Ⅱ 43課① 新出単語 ～そうです(動詞)
81	みんなの日本語初級Ⅱ 43課② ～そうです(形容詞) ～て来ます
82	みんなの日本語初級Ⅱ 43課③ 練習問題
83	みんなの日本語初級Ⅱ 43課④ 会話練習
84	みんなの日本語初級Ⅱ 44課① 新出単語 ～すぎます
85	みんなの日本語初級Ⅱ 44課② ～やすい/にくいです ～く/にします ～にします
86	みんなの日本語初級Ⅱ 44課③ 練習問題
87	みんなの日本語初級Ⅱ 44課④ 会話練習
88	みんなの日本語初級Ⅱ 45課① 新出単語 ～場合は、～

回数	授 業 計 画 (全120回 240コマ)
89	みんなの日本語初級Ⅱ 45課② ~のに、~
90	みんなの日本語初級Ⅱ 45課③ 練習問題
91	みんなの日本語初級Ⅱ 45課④ 会話練習
92	みんなの日本語初級Ⅱ 41課~45課 復習
93	みんなの日本語初級Ⅱ 復習K
94	みんなの日本語初級Ⅱ 46課① 新出単語 辞書形/~ている/~たところです
95	みんなの日本語初級Ⅱ 46課② ~たばかりです ~はずです
96	みんなの日本語初級Ⅱ 46課③ 練習問題
97	みんなの日本語初級Ⅱ 46課④ 会話練習
98	みんなの日本語初級Ⅱ 47課① 新出単語 ~そうです
99	みんなの日本語初級Ⅱ 47課② ~ようです
100	みんなの日本語初級Ⅱ 47課③ 練習問題
101	みんなの日本語初級Ⅱ 47課④ 会話練習
102	みんなの日本語初級Ⅱ 48課① 新出単語 使役形 ~(さ)せます(強制)
103	みんなの日本語初級Ⅱ 48課② ~(さ)せます(容認) ~(さ)せていただけませんか
104	みんなの日本語初級Ⅱ 48課③ 練習問題
105	みんなの日本語初級Ⅱ 48課④ 会話練習
106	みんなの日本語初級Ⅱ 49課① 新出単語 ~(ら)れます お~になります
107	みんなの日本語初級Ⅱ 49課② 特別な尊敬語 お/ご~ください
108	みんなの日本語初級Ⅱ 49課③ 練習問題
109	みんなの日本語初級Ⅱ 49課④ 会話練習
110	みんなの日本語初級Ⅱ 50課① 新出単語 お/ご~します
111	みんなの日本語初級Ⅱ 50課② 特別な謙譲語(目上のための行為) 特別な謙譲語(自分自身のこと)
112	みんなの日本語初級Ⅱ 50課③ 練習問題

回数	授 業 計 画 (全120回 240コマ)
113	みんなの日本語初級Ⅱ 50課④ 会話練習
114	みんなの日本語初級Ⅱ 46課～50課 復習
115	みんなの日本語初級Ⅱ 復習L
116	みんなの日本語初級Ⅱ 副詞・接続詞・会話表現のまとめⅡ
117	みんなの日本語初級Ⅱ 総復習①
118	みんなの日本語初級Ⅱ 総復習②
119	期末試験
120	期末試験振り返り 6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	A2				
科目名	文字語彙				言語活動	読む・書く				
授業形態	講義	演習	実技	実習	1回1時間 45分/時間	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	4					授業単位時間	80			
学習目標 Can do	日常の掲示物やポスター等を見て理解できる。簡単な手紙やメールを読んで理解できる。自分の周りにある日々のいろいろな側面、例えば人物、場所、経験などについての語彙がわかり、読むこと、書くことができる。									
授業概要	漢字を構成する部品に注目し、同じ部品を持つ漢字をつなげることで、学習者が漢字の面白さを発見しながら覚えていくことを目指す。1回(90分)の授業の流れは、①イラストをみたり説明をきいて漢字の成り立ちをイメージする。②その漢字の読み方、書き方を学習する。③形が似ている漢字、同じ部品を使う仲間になる漢字などを紹介する。④練習問題の順で授業を進めて学習していく。はじめは1回の授業当たり5～6の漢字を学習し、慣れていけば少しずつ増やし10文字程度学ぶ。毎回授業のはじめに前回学習した漢字についての読み、書き、意味についてのミニテストを実施し漢字の知識を定着させていく。									
学習 形態・形式	個別・知識や情報の伝達(一方向)講義型									
評価	方法	授業内容についての筆記試験と授業内でのミニテスト、授業に臨む態度について100点満点で評価								
	割合	筆記試験2回(中間・期末)(60%)、授業内でのミニテスト(20%)、授業に臨む態度(20%)								
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 初級	鈴木英子 他	アルク

回数	授業計画(全40回 80コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方) 基礎漢字確認テスト
2	確認テスト振り返り、ウォーミングアップ①②
3	第1課 人、立 でつながる漢字
4	第1課 人、立 でつながる漢字
5	第2課 イ(にんべん)、ヒ でつながる漢字
6	第2課 イ(にんべん)、ヒ でつながる漢字
7	第3課 目、口 でつながる漢字
8	第3課 目、口 でつながる漢字
9	第4課 心、言(ごんべん) でつながる漢字
10	第5課 止、歩いている足の形 でつながる漢字
11	第1～第5課 復習・確認練習
12	第6課 屋根の形(うかんむり)、屋根と壁の形(まだれ) でつながる漢字

13	第7課 子、女、母 でつながる漢字
14	第8課 門、囿いの形（くにがまえ） でつながる漢字
15	第9課 手、又、耳 でつながる漢字
16	第10課 寸、手の形 でつながる漢字

回数	授 業 計 画 (全40回 80コマ)
17	第6～第10課 復習・確認練習
18	中間試験
19	中間試験振り返り、解説、復習練習
20	第11課 日、夕 でつながる漢字
21	第12課 木、草の葉の形（くさかんむり） でつながる形
22	第13課 生、稲の形（のぎへん）、ム でつながる漢字
23	第14課 力、田 でつながる漢字
24	第15課 水を表す形（さんずい）、雨 でつながる形
25	第11～第15課 復習・確認練習
26	第16課 弓、矢、刀 でつながる漢字
27	第17課 牛、貝、食器の蓋の形 でつながる漢字
28	第18課 胴体から足までの形（にんにょう）、欠、長髪の老人の姿（おいかんむり） でつながる漢字
29	第19課 糸、主 でつながる漢字
30	第20課 進む道の形（しんにょう）、車、道を表す形（ぎょうにんべん） でつながる漢字
31	第16～第20課 復習・確認練習
32	第21課 鳥、鳥を変形させた形（ふるとり）、方 でつながる漢字
33	第22課 肉、示 でつながる漢字
34	第21～第22課 復習・確認練習
35	まとめの問題① 部品、意味
36	まとめの問題② 読み方
37	復習
38	期末試験
39	期末試験振り返り、解説、復習練習
40	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1			
科目名	文字語彙				言語活動	読む・書く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	4				1回2時間 45分/時間	授業単位時間	80		
学習目標 Can do	起こったこと、感情、希望が表現される語彙を理解し、自身でも使用することができる。身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くための語彙を理解し、適切に使うことができる。ある程度長い文章の漢字を既習語彙なら辞書を引かずに読むことができる。日常生活に関わるかなり多くの漢字や語彙が理解できるようになり、漢字の意味がわかるだけでなく、音のつながりも意識できる。								
授業概要	漢字を構成する部品（部首）に注目し、同じ部品を持つ漢字をつなげていくことに加え、音と形のつながりにも注目して学習していく。1回の授業の流れは、①イラストを見たり説明を聞いて漢字の成り立ちをイメージする。②その漢字の読み方、書き方を学習する。③形が似ている漢字、同じ部品を使う仲間になる漢字などを紹介する。④同じ部品、同じ音の漢字について意見を出し合う。⑤クイズ、練習問題の順で授業を進めて学習していく。1回あたり10文字程度の漢字を学ぶ。毎回授業のはじめに前回学習した漢字についての読み、書き、意味についてのミニテストを実施し漢字や語彙を定着させていく。								
学習 形態・形式	主に個別・講義型で知識や情報の一方方向伝達、一部問答型								
評価	方法	授業内容についての筆記試験と授業内でのミニテスト、授業に臨む態度について100点満点で評価							
	割合	筆記試験2回（中間・期末）(60%)、授業内でのミニテスト(20%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級	鈴木英子他	株式会社アルク

回数	授業計画（全40回 80コマ）
1	初回ガイダンス（科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方） 初級漢字復習、復習テスト
2	復習テスト振り返り
3	第1課 大、交、己 でつながる漢字
4	第2課 女、横から見た人の姿、ひざまずいて頭を下げた姿 でつながる漢字
5	第3課 イ（にんべん）でつながる漢字
6	第4課 目 でつながる漢字
7	第5課 言、帽子をかぶった顔の形（おおがい）でつながる漢字
8	第1～第5課 復習・確認練習
9	第6課 又、才（てへん）でつながる漢字
10	第7課 手に棒を持っている形、手の形 でつながる漢字
11	第8課 歩いている足の形、胴体から足までの形 でつながる漢字

12	第9課 心、心を縦にした形 でつながる漢字
13	第10課 月、力 でつながる漢字
14	第6～第10課 復習・確認練習
15	第11課 日、白、月 でつながる漢字
16	第12課 木 でつながる漢字

回数	授 業 計 画 (全40回 80コマ)
17	第13課 草を表す形(くさかんむり)、稲の形(のぎへん) でつながる漢字
18	第14課 田 米 でつながる漢字
19	第15課 石、土、穴 でつながる漢字
20	第11～第15課 復習・確認練習
21	中間試験
22	中間試験振り返り、解説、復習練習
23	第16課 水(さんずい)を表す形 崖(がんだれ)を表す形 でつながる漢字
24	第17課 火、火が燃える形 でつながる形
25	第18課 羊、馬、鳥を変形させた形 でつながる漢字
26	第19課 口、囧の形、塰の形 でつながる漢字
27	第20課 屋根の形(うかんむり) でつながる漢字
28	第16～第20課 復習・確認練習
29	第21課 屋根の形、屋根と壁の形、屋根と寝台の形 でつながる漢字
30	第22課 道を表す形、進む道を表す形 でつながる漢字
31	第23課 糸、衣、模様や美しい形を表す でつながる漢字
32	第24課 斧の形、刀の形、骨の形 でつながる漢字
33	第25課 仕事の道具の形、道具を手に持っている形、神を祭る机の形 でつながる漢字
34	第26課 貝、車、曲 でつながる漢字
35	第21～第26課 復習・確認練習
36	まとめの問題①
37	まとめの問題②
38	期末試験
39	期末試験振り返り、解説、復習練習
40	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2			
科目名	文字語彙				言語活動	読む・書く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	2				1回2時間 45分/時間	授業単位時間		40	
学習目標 Can do	広汎な話題について、つながりのあるテキストを書くための語彙を理解し、状況に合わせた語彙の使い分け、正確性の高い漢字の読み書きができるようになる。言葉のネットワークを広げて覚えたり、思い出したり出来、ある程度長い文章を予想しながら読むことができる。								
授業概要	中級以上になると語彙を増やしたり多くの漢字を覚えることが重要だが、ただ数を覚えていくのは難しい。そこで本科目では、テキストを利用し言葉のネットワークを広げ、覚えやすく、また思い出しやすくしていく。テーマを①自然、②一日の生活、③食べ物、④服・家、⑤街・交通、⑥公共サービス・イベント、⑦趣味、⑧体、⑨病気・病院、⑩学校・教育、⑪学問・研究、⑫就職、⑬貿易・取引、⑭反対の動きにわけてマップを作成しながら学習していく。授業の進め方は、1, まずテーマを提示し、学習者自らテーマから連想する語彙をあげてマップをつくってみる。2, テキストをみて、自身で思いつかなかった語や新しい語をマップに加える。3, マップをグループでシェアする。4, 新しい言葉については読み・書き・意味を確認し覚える。5, 練習問題を解くの順で学習する。								
学習 形態・形式	問答形式、課題に対して個人演習、グループ演習								
評価	方法	授業内容についての筆記試験と課題提出、授業に臨む態度について100点満点で評価							
	割合	筆記試験2回（中間・期末）(60%)、授業内での課題（語彙マップ）(20%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	語彙マップで覚える漢字と語彙 中級1500	徳弘康代 他著	Jリサーチ

回数	授 業 計 画 (全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス（科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方） ①自然
2	②一日の生活
3	③食べ物
4	④服・家
5	⑤街・交通
6	⑥公共サービス・イベント
7	⑦趣味
8	①～⑦ 復習
9	中間試験
10	中間試験振り返り、解説、復習練習
11	⑧体
12	⑨病気・病院

13	⑩学校・教育
14	⑪学問・研究
15	⑫就職
16	⑬貿易・取引
17	⑭反対の動き
18	⑧～⑭ 復習
19	期末試験
20	期末試験振り返り、解説、復習練習、6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1			
科目名	文法				言語活動	読む			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	4				1回2時間 45分/時間	授業単位時間	80		
学習目標 Can do	テキストの中のB1レベルの文法が理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。								
授業概要	初級で学んだ項目の復習をした後、日本語能力試験N3レベルの文法について自分で考えたり解説をきいたりして学習する。1回に2~3程度の新しい文法を導入する。各回の進行は次の通り①まず、新しい文法を使った文章をイラストと一緒に提示し、理解できるか問う。②学習者とのやり取りの後に文法について説明や解説をする。③その文法を使った例文をさらに提示する。④学習者がその文法を使用して例文を作る練習をして理解を深める。⑤練習問題終盤には、JLPTのN3文法の問題に挑戦し、自身で理解度を確認し、定着を図っていく。								
学習 形態・形式	知識を伝える講義方式、問いに答える問答方式								
評価	方法	理解度を測る授業内容についての筆記試験と授業に臨む態度について評価し100点満点で評価する。							
	割合	筆記試験2回(中間・期末)(80%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	「日本語能力試験」対策 日本語総まとめN3文法	佐々木仁子 他	アスク出版

回数	授業計画(全40回 80コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方) 初級文法復習、復習テスト
2	復習テスト振り返り
3	第1週 1日目 書かれている、赤ちゃんに泣かれた等、2日目 もう寝ないと、食べちゃった等
4	第1週 3日目 女みたいだ、春らしい等、4日目 忘れ物をしないようにしましょう、聞こえるように話す等
5	第1週 5日目 ご存じのように、早く来るように等、6日目 やめようと思う、電車に乗ろうとしたときに等
6	第1週 7日目 実践問題、第1週 復習・確認練習
7	第2週 1日目 女性ばかり、会員だけしか等、2日目 この問題に関して、日本文化について等
8	第2週 3日目 大きさが違う、苦しみは続く等、4日目 木村さんという人、帰国するというのは本当ですか等
9	第2週 5日目 走るというより、京都というのと等、6日目 聞いてごらん、来るように言う等
10	第2週 7日目 実践問題、第2週 復習・確認練習
11	第3週 1日目 調べても分からなかった、どんなに練習しても等、2日目 日本代表として、100円にしても等
12	第3週 3日目 行くつもりでした、家にいないはずだ等、4日目 散歩のついでに、買い物たびに等
13	第3週 5日目 地図のとおり、テレビをつけたまま等、6日目 怖がらないで、見せてほしい等

14	第3週 7日目 実践問題、第3週 復習・確認練習
15	第1週～第3週 復習①
16	第1週～第3週 復習②

回数	授 業 計 画 (全40回 80コマ)
17	中間試験
18	試験振り返り、解説、復習練習
19	第4週 1日目 あなたにとって、年のわりには等、2日目 先生のおかげで、遅れたせいで等
20	第4週 3日目 米粒くらい、若い人ほど等、4日目 あやまることはない、遅れるということだ等
21	第4週 5日目 あやまることはない、遅れるということだ等、6日目 父の兄、つまり伯父、その結果成功した。等
22	第4週 7日目 実践問題、第4週 復習・確認練習
23	第5週 1日目 勉強はもちろん、昨年に比べて等、2日目 書き上げる、読みかけの本等
24	第5週 3日目 勉強はもちろん、昨年に比べて等、4日目 書き上げる、読みかけの本等
25	第5週 5日目 たとえ反対されても、まるで夢のよう等、6日目 行きたい。だけど、行けない。等
26	第5週 7日目 実践問題、第5週 復習・確認練習
27	第6週 1日目 もし受験していたなら、もしも～なら等、2日目 行われることになっている、食べないことはない等
28	第6週 3日目 聞いたところ、明るいうちに等、4日目 暑いわけだ、勝てるわけがない等
29	第6週 5日目 決してあきらめない、まったく泳げない等、 6日目 コーヒー？それとも紅茶？等
30	第6週 7日目 実践問題、第6週 復習・確認練習
31	第4週～第6週 復習①
32	第4週～第6週 復習②
33	N3レベル問題①
34	N3レベル問題① 解説
35	N3レベル問題②
36	N3レベル問題② 解説
37	復習 まとめ
38	期末試験
39	期末試験振り返り、解説、復習練習
40	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2			
科目名	文法				言語活動	読む			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	4				1回2時間 45分/時間	授業単位時間		80	
学習目標 Can do	よく使われる日常の言葉や自分の身近な話題に関連する言葉で書かれたテキストなら、意味や文型が理解でき、自身でもほぼ間違えることなく使用できる。類似しているが異なる文型について理解ができる。								
授業概要	文法形式を意味によって分類しているテキストを使用して、意味別に文法事項を学習していく。分類の項目は①行為の対象、②目的・手段・媒介、③起点・終点・限界・範囲、④時点・場面、⑤時間的同時性・時間的前後関係など。授業の進め方は、各分類項目毎に①まずN3レベルの文法を復習、②N2レベルの文法の例文を提示して説明、③練習問題、④新出文法を使って自分で例文を作って使う、の順で進めていく。								
学習 形態・形式	知識を伝える講義方式、問いに答える問答方式								
評価	方法	理解度を測る授業内容についての筆記試験と授業に臨む態度について評価し100点満点で評価する。							
	割合	筆記試験2回（中間・期末）(80%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 どんなときどう使う日本語表現500	佐々木仁子 他	アスク出版

回数	授業計画(全40回 80コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方) 中級文法復習
2	①行為の対象 ～に対して、～向き等
3	①行為の対象 ～にこたえて、～をめぐって等、 練習問題 復習
4	②目的・手段・媒介 I 目的 ～ように、～上で等
5	②目的・手段・媒介 II 手段・媒介 ～によると、～を通じて等、 練習問題 復習
6	③起点・終点・限界・範囲 ～を通じて、～にわたって等
7	③起点・終点・限界・範囲 ～からして、～かぎり等
8	③起点・終点・限界・範囲 練習問題 復習
9	④時点・場面 ～際、～において等
10	④時点・場面 ～折、～にあたって等
11	④時点・場面 練習問題 復習
12	⑤時間的同時性・時間的前後関係 I 時間的同時性 ～とともに、～次第等
13	⑤時間的同時性・時間的前後関係 II 時間的前後関係 ～てからは、～上で等

14	⑤時間的同时性・時間的前後関係 練習問題 復習
15	⑥進行・相関関係 I 進行 ~つつある、~ようとしている等、II 相関関係 ~にしたがって等
16	⑥進行・相関関係 II 相関関係 ~とともに、~に伴って等、練習問題 復習

回数	授 業 計 画 (全40回 80コマ)
17	⑦付帯・非付帯 ~つつ、~をぬきにして等
18	⑦付帯・非付帯 練習問題 復習
19	中間試験
20	試験振り返り、解説 ⑧限定 ~に限り、~かぎりは等
21	⑧限定 ~かぎりでは等、練習問題 復習
22	⑨非限定・付加 I 非限定 ~ばかりでなく、~ばかりか等
23	⑨非限定・付加 II 付加 ~はもちろん、~はもとより等、練習問題 復習
24	⑩比較・程度・対比 I 比較・程度 ~に限る、~くらいなら等
25	⑩比較・程度・対比 II 対比 ~というより、~どころか等
26	⑩比較・程度・対比 練習問題 復習
27	⑪判断の立場・評価の視点 I 判断の立場 ~の上で・~上・~上の、~からいうと等
28	⑪判断の立場・評価の視点 II 評価の視点 ~わりには、~だけあって等、練習問題 復習
29	⑫基準 ~をもとに(して)、~に基づいて等
30	⑫基準 練習問題 復習
31	⑬関連・対応 ~をきっかけとして、~次第で等
32	⑬関連・対応 ~に応じて、~につけて等
33	⑬関連・対応 練習問題 復習
34	⑭無関係・無視・例外 ~にかかわらず、~を問わず等
35	⑭無関係・無視・例外 ~はともかく、~はさておき等、練習問題 復習
36	⑮例示 ~にしても~にしても、~にしろ~にしろ等
37	⑮例示 ~やら~やら、~というか~というか等、練習問題 復習
38	⑧~⑮ 復習
39	期末試験
40	試験振り返り、解説、6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1			
科目名	読解				言語活動	読む・話す（やりとり・発表）			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	6				1回2時間 45分/時間	授業単位時間		120	
学習目標 Can do	ある程度まとまりのある身近なテーマの文章を辞書を使いながら最後まで読むことができ、その中から必要な具体的な情報を取り出せる。 身近なテーマや経験のあることなら、話し合いによって意見のやり取りができる。								
授業概要	本科目では身近な社会のテーマについて他者の考えを知り、自らの考えや経験と照合することができるようペア活動やグループ活動を取り入れていく。 まとまりのある、ある程度長い文章に慣れ、話の展開を考えながら筆者の主張や意図を理解することができるように授業を進める。取り上げるテーマは、ファストフード、地震、最近の子ども、日本のイメージ、睡眠、日本人の発明など。1テーマにつき4回で授業を進めていく。進め方は、①新しい言葉を学習②新しい言葉を使ってことばの練習③本文を読んで問いに答える④文法事項の説明と練習⑤もう一度本文を読んでさらに理解を深める⑥テーマに関してグループ内で意見を交換する。グループワークの際、教員は学習者が積極的に参加できるように促す。								
学習 形態・形式	知識や情報の伝達の講義形式、質問を問う問答形式、グループワークの演習形式								
評価	方法	授業内容の理解度を測るための2回の筆記試験と授業に臨む態度について100点満点で評価する。							
	割合	筆記試験2回（中間・期末）(80%)、授業に臨む態度（20%）							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版	平井悦子・三輪さち子	スリーエーネットワーク

回数	授 業 計 画 (全60回 120コマ)
1	初回ガイダンス（科目の概要説明、評価方法、テキスト使用方法、姿勢など） 読解問題確認テスト、解説
2	第1課 『ファストフード』新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
3	文法事項の説明と練習①
4	文法事項の説明と練習② 本文（精読）
5	グループワーク（本文・テーマに関して意見交換）
6	第2課 『地震』新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
7	文法事項の説明と練習①
8	文法事項の説明と練習② 本文（精読）
9	グループワーク（本文・テーマに関して意見交換）
10	復習、練習（関連テーマの文章を読んでもみる）
11	漢字・文章音読練習（第1課、第2課）

12	第3課 『最近の子ども』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
13	文法事項の説明と練習①
14	文法事項の説明と練習② 本文（精読）
15	グループワーク（本文・テーマに関して意見交換）
16	第4課 『日本のイメージ』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い

回数	授 業 計 画 (全60回 120コマ)
17	文法事項の説明と練習①
18	文法事項の説明と練習② 本文 (精読)
19	グループワーク (本文・テーマに関して意見交換)
20	復習、練習 (関連テーマの文章を読んでもみる)
21	漢字・文章音読練習 (第3課、第4課)
22	第5課 『睡眠』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
23	文法事項の説明と練習①
24	文法事項の説明と練習② 本文 (精読)
25	グループワーク (本文・テーマに関して意見交換)
26	第6課 『日本人の発明』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
27	文法事項の説明と練習①
28	文法事項の説明と練習② 本文 (精読)
29	グループワーク (本文・テーマに関して意見交換)
30	復習、練習 (関連テーマの文章を読んでもみる)
31	漢字・文章音読練習 (第5課、第6課)
32	復習
33	中間試験
34	試験振り返り、解説、練習問題
35	第7課 『リサイクルとフリーマーケット』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
36	文法事項の説明と練習、本文 (精読)
37	グループワーク (本文・テーマに関して意見交換)
38	第8課 『あいづち』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
39	文法事項の説明と練習①
40	文法事項の説明と練習② 本文 (精読)

回数	授 業 計 画 (全60回 120コマ)
41	グループワーク (本文・テーマに関して意見交換)
42	復習、練習 (関連テーマの文章を読んでもみる)
43	漢字・文章音読練習 (第7課、第8課)
44	第9課 『男の仕事・女の仕事』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
45	文法事項の説明と練習①
46	文法事項の説明と練習② 本文 (精読)
47	グループワーク (本文・テーマに関して意見交換)
48	第10課 『ことばの使い方』 新しい言葉、ことばの練習、本文、本文への問い
49	文法事項の説明と練習、本文 (精読)
50	文法事項の説明と練習② 本文 (精読)
51	グループワーク (本文・テーマに関して意見交換)
52	復習、練習 (関連テーマの文章を読んでもみる)
53	漢字・文章音読練習 (第7課、第8課)
54	総合練習問題①
55	総合練習問題②
56	復習
57	復習
58	期末試験
59	期末試験の振り返り、解説、復習練習
60	6か月間の学習のリフレクション グループ内学生間評価・自己評価

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2			
科目名	読解				言語活動	読む・話す（やりとり・発表）			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	4				1回2時間 45分/時間	授業単位時間		80	
学習目標 Can do	一般的な話題や新聞記事、エッセイ等の自然な日本語で書かれたまとまりのある文章を読み進め段落毎の要点をまとめることができる。協働学習を通じて表やグラフ等の資料を適切に使用しながら事実・因果関係、文章の表面上からは、読み取り難い文脈や背景等を導き出すことができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。課題をきっかけに授業外でも自身で積極的に学習する習慣が身につく。								
授業概要	テキストの各課の新しい言葉は協働学習にてグループで協力しながら新しい語彙を使った例文をつくり、語彙を理解していく。テキスト内の文章を読んで問いに答えながら、その文章の意味や背景を一緒に考えていき、いろいろな角度から文章を理解する力を養っていく。また、テーマごとにその文章の内容について筆者の考えと自分の考えの違いを述べたり、メンバーの意見を聞くなどディスカッションをすることで、やりとりの力も養っていく。								
学習 形態・形式	質問を問う問答形式、個別・グループワークでの演習形式								
評価	方法	授業内容の理解度を測るための2回の筆記試験と授業に臨む態度について100点満点で評価する。							
	割合	筆記試験2回（中間・期末）（80%）、授業に臨む態度（20%）							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版	松田浩志 亀田美保	研究社
副教材	テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版ワークブック	松田浩志 亀田美保他	研究社

回数	授業計画（全40回 80コマ）	課題・宿題
1	初回ガイダンス（科目の概要説明、評価方法の説明、テキストの説明、副教材の活用方法、授業に臨む姿勢など）	
2	第1課 『まなぶ』新しい言葉【協働学習】 本文（なぞなぞ）を読む・問題に答える	第1課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
3	本文中の文法事項を確認する A ～ようになる/なくなる B ～がる など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
4	関連テーマの記事を読む（どっちが大切） この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
5	第2課 『みつける』新しい言葉【協働学習】 本文（花の名前）を読む・問題に答える	第2課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
6	本文中の文法事項を確認する A ～と、～た B ～ことにする ～ことにしている など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
7	関連テーマの記事を読む（空がおみやげ） この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
8	第3課 『たべる』新しい言葉【協働学習】 本文（ごちそう）を読む・問題に答える	第3課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
9	本文中の文法事項を確認する B ～（さ）せてあげる/やる C ～としか～ない など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
10	関連テーマの記事を読む（ご飯ですよ） この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
11	第4課 『たとえる』新しい言葉【協働学習】 本文（猫に小判）を読む・問題に答える	第4課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ

12	本文中の文法事項を確認する A ~と、~た B ~ことにする ~ことにしている など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
13	関連テーマの記事を読む(テーブルに足がある) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
14	第5課 『あされる』新しい言葉【協働学習】 本文(満員電車)を読む・問題に答える	第5課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
15	本文中の文法事項を確認する A ~たばかり B ~て/でたまらない など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
16	関連テーマの記事を読む(子供とお酒) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習

回数	授業計画(全40回 80コマ)	課題・宿題
17	第6課 『つたえる』新しい言葉【協働学習】 本文(思いやり)を読む・問題に答える	第6課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
18	本文中の文法事項を確認する A ~とか~とか B ~といっても など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
19	関連テーマの記事を読む(食べられませんでした) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
20	中間試験	試験の振り返り
21	第7課 『かざる』新しい言葉【協働学習】 本文(名刺)を読む・問題に答える	第7課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
22	本文中の文法事項を確認する A ~まで B ~によって など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
23	関連テーマの記事を読む(何も言わないかみの毛だけ) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
24	第8課 『おもいこむ』新しい言葉【協働学習】 本文(男の色・女の色)を読む・問題に答える	第8課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
25	本文中の文法事項を確認する A ~ようがない B ~にとって(は) など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
26	関連テーマの記事を読む(水にきをつけて) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
27	第9課 『まもる』新しい言葉【協働学習】 本文(見えない相手)を読む・問題に答える	第9課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
28	本文中の文法事項を確認する A ~はずだ B ~として など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
29	関連テーマの記事を読む(いじめも情報時代) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
30	第10課 『なれる』新しい言葉【協働学習】 本文(腕時計)を読む・問題に答える	第10課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
31	本文中の文法事項を確認する A ~(よ)うと B ~につれて など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
32	関連テーマの記事を読む(追うか追われるか) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
33	第11課 『つながる』新しい言葉【協働学習】 本文(思いやり)を読む・問題に答える	第11課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
34	本文中の文法事項を確認する A ~ざるを得ない B ~さえ など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
35	関連テーマの記事を読む(まだ残っています) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
36	第12課 『わかる』新しい言葉【協働学習】 本文(ABOAB)を読む・問題に答える	第12課 ワークブック練習Ⅰ・Ⅲ
37	本文中の文法事項を確認する A ~通り B ~というのも など	ワークブック練習Ⅳ・Ⅴ
38	関連テーマの記事を読む(強くはないからです) この課のテーマについてディスカッション	次の課の新しい言葉の予習
39	期末試験	試験の振り返り
40	6か月間の学習のリフレクション グループ内学生間評価・自己評価	

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	A2			
科目名	聴解				言語活動	聞く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	2				1回2時間 45分/時間	授業単位時間	40		
学習目標 Can do	はっきり、ゆっくりであれば身近な日常の話題の会話はだいたい理解できる。買い物をするとき、スーパーでの金額等のやりとりが理解できる。はっきり、ゆっくりであれば駅などのアナウンスから必要な情報を聞き取ることができる。								
授業概要	初級段階における日本語の音声を正確に聞き分ける「耳」をつくり、初級に必要な語彙や文法を音声として聞き取る力を養うために、テキストCDを用いて聞く練習をする。テキストは『みんなの日本語 初級Ⅱ』に準拠したものである。すでに初級総合日本語で学んだ学習項目について、CDを聞いて問いに答える形で、聞き取りできるか確認しながら学習していく。1時間に1課進めていく。								
学習 形態・形式	クラス全体でCDをきき、問いに答える問答型								
評価	方法	授業の内容についての聴解試験、授業に臨む態度について100点満点で評価							
	割合	聴解試験2回（中間・期末）(80%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25	牧野昭子 他	スリーエーネットワーク

回数	授 業 計 画 (全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス（科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方） 第26課
2	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第27課、第28課
3	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第29課、第30課
4	復習（第26課～第30課）
5	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第31課、第32課
6	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第33課、第34課
7	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第35課、第36課
8	復習（第31課～第36課）
9	中間試験
10	試験振り返り、解説、みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第37課
11	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第38課、第39課
12	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第40課、第41課
13	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第42課、第43課

14	復習（第37課～第43課） *（初級総合日本語は中間が37課まで）
15	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第44課、第45課
16	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第46課、第47課
17	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第48課、第49課
18	みんなの日本語初級Ⅱ第2版 聴解タスク25 第50課、復習（第44課～第50課）
19	期末試験
20	期末試験振り返り、解説、6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1			
科目名	聴解				言語活動	聞く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数	2				1回2時間 45分/時間	授業単位時間	40		
学習目標 Can do	学校・余暇などの普段出会う、ごく身近な事柄について、共通語で明瞭に話されたものであれば、要点を理解できる。地域の日本人が、はっきり明瞭に話した事柄の内容を理解することができる。								
授業概要	中級の語彙や文法を使った会話の言い回しの表現や説明などを音声として聞き取ることでできる力を身に着けるために聴解教材『日本語生中継初中級編1』を用いて学習する。テキストで取り扱っているテーマの例として、貸してもらう、予定を変更する、レストランで、旅行の感想、買い物、アルバイトを探すなどがある。1テーマにつき2回(90分×2回)で学習する。授業の進め方として1回目①タイトルからイメージできる経験をクラスで話し合う。②本文のポイント聞き取る。③テーマに関する語彙を確認④本文の内容をききとり問題に答える。2回目⑤本文の詳細をききとる(ディクテーション)。4時間目⑥本文中の重要表現について確認 期間中1回、テキスト以外に日本の歌をテーマに取り扱う								
学習 形態・形式	クラス全体でCDを聞き、問いに答える問答形式。								
評価	方法	授業の内容についての聴解試験、授業に臨む態度について100点満点で評価							
	割合	聴解試験2回(中間・期末)(80%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1	ボイクマン総子 他	くろしお出版
副教材	生教材(日本の歌 等)		

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方) ①貸してもらう ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認
2	①貸してもらう 本文の内容聞き取り問題、ディクテーション、重要表現確認
3	②予定を変更する ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
4	②予定を変更する ディクテーション、重要表現確認
5	③レストランで ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
6	③レストランで ディクテーション、重要表現確認
7	④旅行の感想 ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
8	④旅行の感想 ディクテーション、重要表現確認
9	⑤買い物 ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
10	⑤買い物 ディクテーション、重要表現確認
11	中間試験 試験振返り、解説

12	⑥アルバイトを探す ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認
13	⑥アルバイトを探す 本文の内容聞き取り問題、ディクテーション、重要表現確認
14	⑦ほめられて ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
15	⑦ほめられて ディクテーション、重要表現確認
16	⑧交通手段 ウォーミングアップ、ポイント、本文の内容聞き取り問題、重要表現確認
17	⑨ゆずります ウォーミングアップ、ポイント、本文の内容聞き取り問題、重要表現確認
18	⑩マンション ウォーミングアップ、ポイント、本文の内容聞き取り問題、重要表現確認
19	期末試験 試験振返り、解説
20	日本の歌 6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2			
科目名	聴解				言語活動	聞く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		2			1回2時間 45分/時間	授業単位時間		40	
学習目標 Can do	個人的な話題だけでなく、話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているならニュースや天気予報、時事問題などについて、ラジオやテレビ番組の要点はもちろん全体的な把握をすることができる。								
授業概要	実際に使われているような母語話者同士の会話に慣れ、日常生活のいろいろな場面における案内などから必要な情報を聞き取ることができるように『日本語生中継 初中級編2』のテキストとCDを使って学習を進める。学習者が人間関係や状況、内容に応じた表現を理解できるよう、取り上げるテーマは、出会い、ホテルで、うわさ、機械のトラブル、失敗、電話をかける、など。1テーマにつき6つの項目を4時間で学習する。授業の進め方として1時間目①タイトルからイメージできる経験をクラスで話し合う。②本文のポイントを読み取る。2時間目③テーマに関する語彙を確認④本文の内容をききとり問題に答える。3時間目⑤本文の詳細をききとる(ディクテーション)。4時間目⑥本文中の重要表現について確認。テキスト以外には、生教材を用いて天気予報、ニュースなどを聞く機会を設ける。								
学習 形態・形式	クラス全体でCDを聞き、問いに答える問答形式。								
評価	方法	授業の内容についての聴解試験、授業に臨む態度について100点満点で評価							
	割合	聴解試験2回(中間・期末)(80%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編2	ポイクマン総子 他	くろしお出版
副教材	生教材(日本の歌、天気予報、簡単なニュース等)		

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方) ①出会い ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認
2	①出会い 本文の内容聞き取り問題、ディクテーション、重要表現確認
3	②ホテルで ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
4	②ホテルで ディクテーション、重要表現確認
5	③うわさ ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
6	③うわさ ディクテーション、重要表現確認
7	④機械のトラブル ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
8	④機械のトラブル ディクテーション、重要表現確認
9	⑤失敗 ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認、本文の内容聞き取り問題
10	⑤失敗 ディクテーション、重要表現確認

11	中間試験
12	試験振り返り、解説、生教材を聞いてみよう。
13	⑥電話をかける ウォーミングアップ、ポイント聞き取り、語彙確認
14	⑥電話をかける 本文の内容聞き取り問題、ディクテーション、重要表現確認
15	⑦健康のために ウォーミングアップ、ポイント、本文の内容聞き取り問題、重要表現確認
16	⑧駅で ウォーミングアップ、ポイント、本文の内容聞き取り問題、重要表現確認
17	⑨趣味 ウォーミングアップ、ポイント、本文の内容聞き取り問題、重要表現確認
18	⑩抱負 ウォーミングアップ、ポイント、本文の内容聞き取り問題、重要表現確認
19	期末試験
20	期末試験振り返り、解説、生教材を聞いてみよう。、6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1			
科目名	会話				言語活動	聞く・話す(やり取り)			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		2			1回2時間 45分/時間	授業単位時間		40	
学習目標 Can do	直接自分につながるのある話題や活動で、頻繁に使われる語彙や表現を理解することができ、自ら会話をはじめたり続けたりしながら、短い社会的なやり取りをすることはできる。								
授業概要	<p>本科目では日常でみられる様々な場面において、日本語話者とのやり取りができるようになるために、モデル文を参考に、ペアやグループでロールプレイをして、会話を練習していく。期末には個別に習熟度を確かめる会話テストを実施する。取り扱うテーマは、「場所をきく」、注文する、チケット売り場で買う、誘う・断る、忘れ物を問い合わせる、事情を説明する・頼む</p> <p>授業の進め方は、①まず場面を紹介し、そのとき何というか考えてもらう。②その場面での適切な表現や例を紹介する。③テキストの会話文を練習する。④モデルの文を参考にペアまたはグループで場面設定やその時の会話を考える。⑤ペアで発表(ロールプレイング)⑥発表を聞いた学習者は発表について評価する。⑦フィードバック、振り返り</p>								
学習 形態・形式	テーマについてペアまたはグループワークとその発表								
評価	方法	授業内でのロールプレイ発表の実施状況と期末の会話試験、授業に臨む態度にて100点満点で評価する。							
	割合	授業内でのロールプレイ評価6回(自己評価10%、学生間での評価10%、教員評価20%)、複数教員による会話試験1回(40%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話	小池真理 他	スリーエーネットワーク

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方、授業への参加姿勢など)
2	場所を聞く①
3	場所を聞く②
4	注文する①
5	注文する②
6	チケット売り場で買う①
7	チケット売り場で買う②
8	誘う・断る①
9	誘う・断る②
10	あいさつする・尋ねる①
11	あいさつする・尋ねる②
12	会話を続ける①

13	会話を続ける②
14	忘れ物を問い合わせる①
15	忘れ物を問い合わせる②
16	事情を説明する・頼む①
17	事情を説明する・頼む②
18	復習
19	会話試験
20	試験振り返り、解説、6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1			
科目名	会話				言語活動	聞く・話す(やり取り)			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		2			1回2時間 45分/時間	授業単位時間		40	
学習目標 Can do	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら、要点を理解し適切な受け答えをして会話をスムーズに進めることができる。敬語での会話ができるようになり、アルバイトの時や初めて会う人、留学生が経験するフォーマルな場面で、適切な言葉を選択して、自然で失礼のないコミュニケーションをとることができる。								
授業概要	日常でみられる様々な場面において、人間関係を円滑にしコミュニケーションがスムーズにできるように、敬語を使っての会話を学習する。初回に、初級で学んだ敬語の復習をし、2回目から場面設定に応じた敬語での会話について学習し練習していく。取り上げる場面については、①誘う、②お願いする、③断る、④申し出る、⑤おわびする、⑥意見を言う、⑦予約を受ける。授業の進め方は、各場面毎に、1, カジュアルな会話文で書かれたものを敬語や丁寧語に直す。2, 直したのについて個人・ペアやグループで会話練習をする。3, 学習した敬語を使って場面での会話文をつくり発表する、の順に進める。1 場面につき6時間で進め、授業内の発表には、自己評価、学習者同士の評価を取り入れる。期末には個別に教員による対面での会話試験を行う。								
学習 形態・形式	演習(個別・ペア・グループ)								
評価	方法	授業内でのロールプレイ発表の実施状況と期末の会話試験、授業に臨む態度にて100点満点で評価する。							
	割合	授業内でのロールプレイ評価6回(自己評価10%、学生間での評価10%、教員評価20%)、複数教員による会話試験1回(40%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新にほんご敬語トレーニング		スリーエーネットワーク

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方、授業への参加姿勢など)
2	謙遜する・ほめる①
3	謙遜する・ほめる②
4	あやまる①
5	あやまる②
6	苦情を言う①
7	苦情を言う②
8	電話をかける①
9	電話をかける②
10	親しい友人と話す①
11	親しい友人と話す②

12	許可を求める①
13	許可を求める②
14	お見舞いに行く①
15	お見舞いに行く②
16	頼む・頼まれる①
17	頼む・頼まれる②
18	復習
19	会話試験
20	試験振り返り、解説、6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	A2				
科目名	日本事情				言語活動	聞く・話す(やりとり・発表)・書く				
授業形態	講義	演習	実技	実習	1回1時間 45分/時間	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		1				授業単位時間	20			
学習目標 Can do	ATMの使い方や荷物の受け取り方、自転車の乗り方、交通ルール、買い物の仕方、アルバイトの法律等を理解し、ルールを守りながら生活できる。有田市の観光地や有名なものについて簡単に知り、看板やポスターの写真やイラスト、既習語彙から情報を推測しながら読み取ることができる。学校周辺を散策して地域の人に簡単な日本語で質問できる。学んだこと、知ったことについての内容や簡単な感想を発表できる。									
授業概要	初めて日本を訪れた日本語学習者が日本の生活や日本の基本的なルールや文化を学び、日本での生活に慣れるように説明を聞いて学習する。内容は、交通ルール、ATMの使い方、買い物、アルバイト、病院、有田市の紹介などのテーマを取り上げる。また、教室内での活動だけでなく、見学や体験を取り入れる。学校周辺を歩いて散策し、散策の際に簡単な日本語を使用して地域の方々に質問をする。散策の時に経験したことについて簡単にまとめ、感想を発表し、ペアで地域に関するクイズを作成する。									
学習 形態・形式	個別・講義(知識や情報の一方方向伝達)、ペア活動(協働学習や発表)、学外活動 ペア評価や自己評価は成績評価には含めない。									
評価	方法	授業で取り上げたルール等についてのクイズ、成果物(ペアで作成したクイズ)、授業に臨む態度について100点満点にて評価								
	割合	クイズ4回(60%)、成果物(20%)、授業に臨む態度(20%)								
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	自作教材		

回数	授業計画(全20回)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方) 日本の生活・学校生活について
2	日本の交通ルール①(自転車の乗り方、保険等)
3	日本のお金、銀行、ATMの使い方
4	日本での買い物(スーパー、デパート、コンビニ等の買い物方法、成分表示の見方)
5	日本の交通ルール②(電車、バスの乗り方、時刻表の見方)
6	日本の食習慣、食事のマナー
7	アルバイトについて
8	日本の病院
9	日本の気候
10	有田市の紹介①

11	有田市の紹介②
12	街歩き①
13	街歩き②
14	街歩き感想発表
15	クイズ①
16	クイズ②
17	自然災害・防災について
18	日本の季節の行事①
19	日本の季節の行事②
20	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1				
科目名	日本事情				言語活動	聞く・話す(やりとり・発表)・書く				
授業形態	講義	演習	実技	実習	1回1時間 45分/時間	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		1				授業単位時間		20		
学習目標 Can do	日常の学校生活やアルバイトの中で、情報の直接のやり取りが必要なならば、身近な話題や活動について話し合いができる。既習の語彙をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を話すことができる。日本の文化、社会などについて調べることができ、一般的なことを理解し、自分の考えを述べ、自国と比較して発表できる。									
授業概要	日本の文化・地理・社会・産業等について学習する。取り扱うテーマは、日本の季節の行事、日本の災害、地域の災害と防災、日本の企業などで、テーマについての講義をきき、感じたこと、気になったことについて自分の意見をまとめて発表する。自分の国や地域と比較し、相手に伝わるような発表ができるように、教員のアドバイスを受けながら、用いる言葉や、声の大きさ、スピードなどに注意して発表できるように準備をする。									
学習 形態・形式	部は知識や情報を伝達する講義形式、一部は演習・ワークショップ形式									
評価	方法	授業で取り上げた話題についてのクイズ(筆記)と、提出物や発表、授業に臨む態度について100点満点にて評価								
	割合	授業内容についてのクイズ1回(20%)、提出物(20%)、発表(20%)授業に臨む態度(20%)								
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	自作教材		

回数	授業計画(全20回)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方)
2	日本の季節の行事・時事ニュース①
3	日本の地理①
4	日本の地理②
5	日本の地理③
6	日本の災害①
7	日本の災害②
8	日本の災害③
9	日本の災害④
10	日本の季節の行事・時事ニュース②

11	地域の災害と防災①
12	地域の災害と防災②
13	地域の災害と防災③
14	地域の災害と防災④
15	日本の企業①
16	日本の企業②
17	日本の企業③
18	日本の企業④
19	確認テスト (クイズ)
20	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2			
科目名	日本事情				言語活動	聞く・話す(やりとり・発表)・書く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		1				1回1時間 45分/時間	授業単位時間		40
学習目標 Can do	話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、要点を理解し、自身で必要な情報を収集することができる。 日本の文化、社会、政治経済などについて一般的なことを理解し、さらに日本や日本語への興味を深め今後の日本の生活に役立てられるようにする。地域や地域住民のことをさらに深く知り、相手を思いやり、相手に合わせたやり取りができる。地図をつくり、相手に伝わるよう説明することができる。								
授業概要	本科目では授業内で次の2つのテーマについて調べて発表する。 テーマ①：(留学生としての教養範囲で)日本の社会・産業・政治経済について理解し、興味ある分野についてテーマを決めて調べ、自国と比較しながら発表する。 テーマ②：グループで地域を散策して、周辺の地図を作成して発表する。作成する地図は対象者を決め(例えば地域の高齢者、小学生、大学生など)、対象者に対しての必要な情報を盛り込んだ地図を作成し、対象にあったわかりやすい発表方法を考えて発表する。調べる際にはインターネットの情報や、地域を散策して直接情報収集もする。								
学習 形態・形式	演習形式 課題①個人演習 課題②グループワーク								
評価	方法	課題について作成し提出したもの、発表、授業に臨む態度について100点満点にて評価							
	割合	提出物(40%)、課題についての発表(40%)授業に臨む態度(20%)							
成績判定	記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	自作教材		

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方)
2	日本の季節の行事・時事ニュース①
3	日本の社会・産業・政治経済(自国との比較)①
4	日本の社会・産業・政治経済(自国との比較)②
5	日本の社会・産業・政治経済(自国との比較)③
6	日本の社会・産業・政治経済(自国との比較)④
7	日本の社会・産業・政治経済(自国との比較)⑤
8	日本の社会・産業・政治経済(自国との比較)⑥
9	日本の社会・産業・政治経済(自国との比較)⑦
10	日本の季節の行事・時事ニュース②

11	地域の地図を作成 ①
12	地域の地図を作成 ②
13	地域の地図を作成 ③
14	地域の地図を作成 ④
15	地域の地図を作成 ⑤
16	地域の地図を作成 ⑥
17	地域の地図を作成 ⑦
18	地域の地図を作成 ⑧
19	日本の季節の行事・時事ニュース③
20	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	A2				
科目名	作文				言語活動	書く				
授業形態	講義	演習	実技	実習	1回1時間 45分/時間	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		1				授業単位時間	20			
学習目標 Can do	日常の身近な場面、例えば人物、場所、経験などについて、つながりのある文で、400字程度の作文が書ける。また、スマートフォンに簡単な日本語文の入力ができる。									
授業概要	身近なテーマについて、既習の語彙や文法を使って、まとまりのある文章が書けるように練習する。毎回、授業の初めにテーマに関連した語彙や文法を復習し、教師の説明やモデル文を参考にしながら、自身で作文を書く。短文の羅列だけではなく、全体的な構成も考えた作文になるように、作成途中で教師がアドバイスをしていく。毎回違うテーマで作文を書いていき、最後には自由テーマで作文を書く。取り扱う作文テーマは①自己紹介②私の家族③私の国・町④旅行⑤趣味⑥日本でびっくりしたこと⑦手紙。また授業内でスマートフォンで日本語入力にも挑戦する。									
学習 形態・形式	導入は講義型、作文指導は個別指導型									
評価	方法	毎回の授業内でテーマに沿った作文が提出されているか、期末の課題作文についてはルーブリック評価表を用いて求めるレベルをクリアしているのか、そして授業に臨む態度について、全体で100点満点で評価する。								
	割合	毎時間の作文提出(50%)、期末の課題作文(30%)、授業に臨む態度(20%)								
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	みんなの日本語初級 やさしい作文	門脇薫 他	スリーエーネットワーク

回数	授 業 計 画 (全20回)
1	初回ガイダンス (科目の目的・目標・評価、授業の進め方)
2	自己紹介①
3	自己紹介②
4	私の家族①
5	私の家族②
6	私の国・町①
7	私の国・町②
8	旅行①
9	旅行②
10	趣味①
11	趣味②
12	日本でびっくりしたこと①

13	日本でびっくりしたこと②
14	スマートフォンでの日本語入力に挑戦① 入力方法を知って試してみる
15	スマートフォンでの日本語入力に挑戦② スマートフォンで日本語の文章を書き込む
16	手紙①
17	手紙②
18	課題作文①
19	課題作文②
20	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B1				
科目名	作文				言語活動	書く				
授業形態	講義	演習	実技	実習	1回1時間 45分/時間	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		1				授業単位時間		20		
学習目標 Can do	生活の中のさまざまな関心のある話題について、与えられたテーマに沿った、つながりのあるテキストを書くことができる。構成がある程度整ったわかりやすい作文が書ける。									
授業概要	毎回、授業の初めにテーマに関連した語彙や文法を復習し、教師の説明やモデル文を参考にしながら、テーマに沿って自身で作文を書く練習をしていく。取り扱うテーマは、①私の夢、②隣の人に一言、③国との比較A・B、④必要？不必要？、⑤わたしの周りの最近のニュース、⑥私の国の有名人 ⑦自由テーマ作文。初級では適切な語彙や文法について教員がアドバイスしていたが、中級では直接間違いを指摘するのではなく自分で間違いに気づくことができるように促していき、与えられたテーマに沿って、読み手に伝えたいことを中心に構成を考え、わかりやすく効果的に作文が書けるように練習していく。									
学習 形態・形式	導入は講義型、作文指導は個別指導型									
評価	方法	毎回の授業内でテーマに沿った作文が提出されているか、期末の課題作文についてはルーブリック評価表を用いて求めるレベルをクリアしているのか、そして授業に臨む態度について、全体で100点満点で評価する。								
	割合	毎時間の作文提出(50%)、期末の課題作文(30%)、授業に臨む態度(20%)								
成績判定	上記評価方法で評価の上、100～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	みんなの日本語初級 やさしい作文	門脇薫 他	スリーエーネットワーク

回数	授 業 計 画 (全20回)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方)
2	私の夢①
3	私の夢②
4	隣の人に一言①
5	隣の人に一言②
6	国との比較A(日本のほうが良いと思うこと)①
7	国との比較A(日本のほうが良いと思うこと)②
8	国との比較B(自国のほうが良いと思うこと)①
9	国との比較B(自国のほうが良いと思うこと)②
10	必要?不必要?①
11	必要?不必要?②
12	わたしの周りの最近のニュース①

13	わたしの周りの最近のニュース②
14	私の国の有名人①
15	私の国の有名人②
16	自由テーマ作文①
17	自由テーマ作文②
18	期末課題作文①
19	期末課題作文②
20	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2			
科目名	作文				言語活動	書く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		2			1回2時間 45分/時間	授業単位時間		40	
学習目標 Can do	与えられたテーマに沿って作文を論理的に組み立てて書くことができる。留学生が間違えやすい語彙や文法に気をつけながら、読む人の立場に立った読みやすいある程度長い文章(800字程度)が書けるようになる。								
授業概要	作文を書くときに留学生が間違いやすいポイント、例えば、助詞の使い方、自動詞・他動詞・受け身、呼応、文末表現について、テキストの練習問題を使って学習する。 授業内で次の2つの作文を書く。①以前書いたテーマから1つ選び、再度そのテーマについて作文を書く。その際、以前の作文と比較して、内容がより詳しく、より自然な日本語で書けるようになっていないことを自身で意識する。②期末に自由テーマで作文を書く。読み手に伝えたいことは何かを中心に構成を考え、テーマに沿ったある程度長い文章が論理的に書けるように練習していく。教員から作文の構成や論理性について適宜アドバイスを受け、自律的に作文を仕上げていく。								
学習 形態・形式	演習(個別)、個別指導型								
評価	方法	作文ルールについての筆記試験、課題作文①②についてのルーブリック評価、授業に臨む態度について、全体で100点満点で評価する。							
	割合	筆記試験1回(20%)、課題作文①(30%(うち自己評価10%))、課題作文②(30%(うち自己評価10%))、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	留学生のためのここが大切 文章表現のルール	石黒圭	スリーエーネットワーク
	自作教材		

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方、教科書の使い方)
2	助詞の使い方①
3	助詞の使い方②
4	言葉の形の使い分け①
5	言葉の形の使い分け②
6	自動詞・他動詞・受身①
7	自動詞・他動詞・受身②
8	課題作文I①
9	課題作文I②
10	課題作文I③
11	呼応①

12	呼応②
13	呼応③
14	文末表現の調整①
15	文末表現の調整②
16	文末表現の調整③
17	課題作文Ⅱ①
18	課題作文Ⅱ②
19	作文ルールについての筆記試験
20	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2			
科目名	試験対策A				言語活動	聞く・話す(やりとり・発表)・書く			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		2				1回2時間 45分/時間	授業単位時間		40
学習目標 Can do	作文と小論文の違いを理解し、意識しながら記述することができる。ある程度まとまった長さの文章を一定の速さで読むことができる。講義で使用されるような図やグラフ等を見ながら説明を大まかに聞き取ることができる。文章の中に出てくる副詞や慣用表現等ある程度理解することができる。大学入試にむけての準備ができる。								
授業概要	本科目では、以下の3つのことを進めていく。①JLPT受験のための試験対策②希望大学についての情報収集③大学入試のための日本留学試験の日本語科目対策 進め方は、①については該当レベルの問題を解いたり、模擬試験を実施する。②は学習者自身が積極的に志望大学についてインターネット等で調べる。教員は情報提供をしたり質問に答えたりして支援をする。③はEJUの日本語試験の対策をテキストや問題集を使って実施していく。 ①②③の時期については、各試験時期に合わせて調整していく。								
学習 形態・形式	個人別の演習形式								
評価	方法	提出物や期末の自己評価、授業に臨む態度にて100点満点で評価する。							
	割合	提出物(40%)、振り返り・自己評価(40%)、授業に臨む態度(20%)							
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	日本留学試験速攻トレーニング 読解編	加藤早苗 他	アルク
	日本留学試験速攻トレーニング 聴読解編	嶋田和子 他	アルク
	日本留学試験速攻トレーニング 記述編	嶋田和子 他	アルク
	合格できる日本語能力試験N3・N2		アルク
	パターン別徹底ドリルN3・N2		アルク

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方)
2	JLPT対策
3	JLPT対策
4	JLPT対策
5	JLPT対策
6	JLPT対策
7	JLPT対策
8	JLPT対策
9	JLPT対策

10	JLPT対策
11	キャリアプランについて①
12	キャリアプランについて②
13	進学について（志望校の決め方、進学準備の進め方、学校の情報収集）
14	EJU日本語科目対策 読解①
15	EJU日本語科目対策 読解②
16	EJU日本語科目対策 聴読解①
17	EJU日本語科目対策 聴読解②
18	EJU日本語科目対策 記述①
19	EJU日本語科目対策 記述②
20	6か月間の学習のリフレクション

添付書類「(23) 授業科目の内容を示す書類」

教育課程の名称	留学のための課程				参照枠	B2				
科目名	試験対策B				言語活動	聞く・話す(やりとり・発表)・書く				
授業形態	講義	演習	実技	実習	1回2時間 45分/時間	履修レベル	初級	中級	中上級	上級
単位数		2				授業単位時間			40	
学習目標 Can do	自分の夢や志望動機について、読む人の立場に立った読みやすい文章を書いて伝えることができる。ある程度まとまりのある文章を読むことに慣れ、未習語彙も意味を予測しながら読むことができる。日常的话题であれば、アナウンスや会話、講義等、様々な様式でも聞き取ることができ、面接試験で緊張せずに自然に話すことができる。自身の希望する専門学校の試験に合格できる。試験の問題形式や得点配分等を理解し、時間配分を気にしながら問題を最後まで解くことができる。面接試験で緊張せずに自然に話すことができ、希望する専門学校の試験に合格できる。 進学先での授業への不安が軽減する。									
授業概要	本科目、試験対策Bでは以下の3つのことを進めていく。①JLPT受験のための受験対策②専門学校の入試のための小論文対策、面接対策③進学先の専門学校の情報収集と入学前学習 進め方は、①は、対策該当レベルの問題を解いたり、模擬試験を実施する。②は、入試に必要な志望理由書や小論文を書く練習をする。学習者が主体的に行い、教員は情報提供やアドバイスをして支援する。①②の時期や順番は、各試験の日程にあわせ調整する。③は、それぞれの進学先について学習者が主体的に調べ、入学前に必要なことについて学習する。教員は質問に答えたりして支援をしていく。									
学習 形態・形式	個人別の演習形式									
評価	方法	提出物や期末の自己評価、授業に臨む態度にて100点満点で評価する。								
	割合	提出物(40%)、振り返り・自己評価(40%)、授業に臨む態度(20%)								
成績判定	上記評価方法で評価の上、100~80点=A、79~70点=B、69~60点=C、59点以下=Dで、C以上が合格									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	日本留学試験速攻トレーニング 読解編	加藤早苗 他	アルク
	日本留学試験速攻トレーニング 聴読解編	嶋田和子 他	アルク
	日本留学試験速攻トレーニング 記述編	嶋田和子 他	アルク
	合格できる日本語能力試験N3・N2		アルク
	パターン別徹底ドリルN3・N2		アルク

回数	授業計画(全20回 40コマ)
1	初回ガイダンス(科目の目的・目標・評価、授業の進め方)
2	キャリアプランについて
3	進学について(志望校の決め方、進学準備の進め方、学校の情報収集)
4	志望動機を記述して提出
5	進学に必要な書類の作成
6	面接の準備
7	志望校の試験対策①

8	志望校の試験対策②
9	JLPT対策
10	JLPT対策
11	JLPT対策
12	JLPT対策
13	JLPT対策
14	JLPT対策
15	JLPT対策
16	JLPT対策
17	進学先や志望分野に関する情報収集①
18	進学先や志望分野に関する情報収集②
19	志望分野についてのレポート
20	6か月間の学習のリフレクション